

(1) 早稲田通り

富士見台地区の中心軸として、早稲田通りを中心に、性格の異なる「よこみち」(=早稲田通りに対して交わる方向に伸びるみち)を繋いでいく。まず、自動車通行を一方通行・規制の強化することで通過交通を抑制し、シェアードスペースとして整備する。歩車分離せずに舗装を統一し、ゆるやかにストリートファニチャーや街路樹を配置することで歩行者とスロームビリティによる移動が中心のみちとなる。そして、北側の商店・業務ビルが集まるエリアでは、1階部の機能誘導と合わせて賑わいを生み出し、南側の学校が集中する地区では、学びの道と一体的に広場を作る。

モビリティスポット
低層部のコミュニティ空間
セッバック空間の活用
学校の扉をオープンに

(2) 大神宮通り

東京大神宮、飲食店や商業店舗、業務ビルが並び通り。共同駐車場を裏手に作ることに加え、道路の再配分を行い一時駐車スペースと休憩スペースを設けることで現状の一時駐車による歩行者空間の圧迫を改善する。また、空地の暫定利用として一休みできるポケットパークを設け、盆踊りなどの地域のイベントの際に活用され、東京大神宮の境内だけでなく通り全体が祝祭的な場となる。

空地の暫定利用
一時駐車スペース
共同駐車場

新業出店者

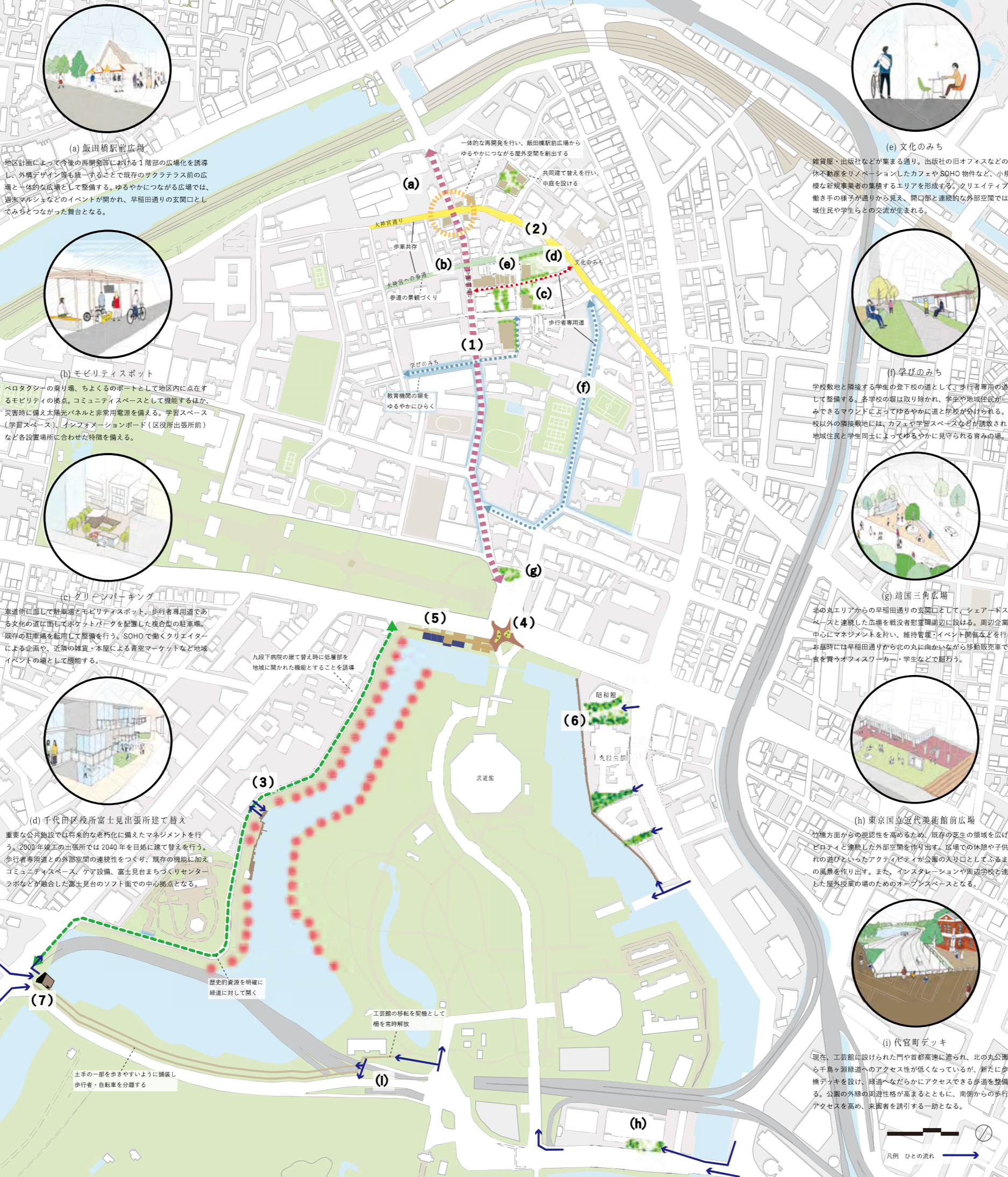
- 入居者: 入居者連帯保証会、既存の商店・企業
- 整備: 共同駐車場、沿道に駐車場ができ、景観が途切れることを防ぐ

(3) 千鳥ヶ淵緑道デッキ

車道を挟んで対面のカフェ前からボート乗り場までをスムーズに移動しながら水辺に近付けるデッキを整備する。さらに緑道の植栽帯を再配置することでカフェ/緑道/デッキ/千鳥ヶ淵の連続的な関係性をつくり出す。それぞれを行き来することで緑道散歩の中で周囲のさらなる魅力を発見することができる。また、マンションの1F部に新設したカフェの収益やボート賃し出しの売上げの一部千鳥ヶ淵の環境改善や水質改善に充て、さらさらや緑道の保全・整備だけでなく、水辺の活用とともに全体的な環境の維持向上をめざす。

通過空間
滞留空間
＜ポケット溜床＞

水辺活用
まちづくりNPO
千鳥ヶ淵



(a) 飯田橋駅前広場

地区計画によって今後の再開発等における1階部の広場化を誘導し、外構デザイン等も統一することで既存のサクラテラス前の広場と一体的な広場として整備する。ゆるやかにつながる広場では、週末マルシェなどのイベントが開かれ、早稲田通りの玄関口としてみちとつながった舞台となる。

(b) モビリティスポット

ベロタクシーの乗り場、ちよくるのポートとして地区内に点在するモビリティの拠点。コミュニティスペースとして機能するほか、災害時に備え太陽光パネルと非常用電源を備える。学習スペース(学習スペース)、インフォメーションボード(区役所出張所前)など各設置場所に合わせた特徴を備える。

(c) グリーンパーキング

車道側面に沿って駐車場とモビリティスポット、歩行者専用道である文化の道に面してポケットパークを配置した複合型の駐車場。既存の駐車場を転用して整備を行う。SOHOで働くクリエイターによる企画や、近隣の雑貨・本屋による青空マーケットなど地域イベントの場として機能する。

(d) 千代田区役所富士見出張所建て替え

重要な公共施設では将来的な老朽化に備えたマネジメントを行う。2000年竣工の出張所では2040年を目標に建て替えを行う。歩行者専用道との外部空間の連続性を確保し、既存の機能に加えコミュニティスペース、ゲージ設備、富士見台まちづくりセンターラボなどが融合した富士見台のソフト面での中心拠点となる。

(e) 文化のみち

雑貨屋・出版社などが集まる通り。出版社の旧オフィスなどの遊休不動産をリノベーションしたカフェやSOHO物件など、小規模な新規事業者の集積するエリアを形成する。クリエイティブな働き手の様子が見え、開口部と連続的な外部空間では地域住民や学生らとの交流が生まれる。

(f) 学びのみち

学校敷地と隣接する学生の登下校の道として、歩行者専用道として整備する。各学校の扉は取り除かれ、学生や地域住民が一体みできるマウンドによってゆるやかに道と学校が分けられる。学校以外の隣接敷地には、カフェや学習スペースなどが誘致される。地域住民と学生同士によってゆるやかに見守られる育みの場。

(g) 靖国三角広場

北の丸エリアからの早稲田通りの玄関口として、シェアードスペースと連続した広場を職労者層周辺に設ける。周辺企業を中心にマネジメントを行い、維持管理イベント開催などを行う。お昼時には早稲田通りから北の丸に向かいながら移動販売車で昼食を扱うオフィスワーカー・学生などで賑わう。

(h) 東京国立近代美術館前広場

竹橋方面からの視認性を高めるため、既存の歩道の領域を広く、ピロティと連続した外部空間を作り出す。広場の休憩や子供連れ遊びをいっただけのアクティビティが公園の入り口としてふるまの風景を作り出す。また、インスタレーションや周辺学校と連携した屋外授業の場のためのオープンスペースとなる。

(i) 代官町デッキ

現在、工芸館に設けられた門や首都高道に連れられ、北の丸公園から千鳥ヶ淵緑道へのアクセス性が低くなっているが、新たに歩道デッキを設け、緑道へ自然にアクセスできる歩道を整備する。公園の外縁の可視性が高まることと、南側からの歩行者アクセスを高め、来園者を誘引する一助となる。

(4) 田安門前交差点歩道橋

登下校の学生や、高齢者などさまざまな周辺住民、観光客や他地区からの来街者でにぎわう。

(5) 北の丸インフォメーションセンター

歩道橋による単一的な行き来の動線のみであり、靖国通りの交通量の多さ・幅員の大きさから富士見台エリアと北の丸公園にはアクティビティの切断が起きている。そこで靖国交差点の空を自由に遊歩できるデッキを設け、つづいて、ふるまの場が生まれた交差点のひとの受け皿になるような拠点を北の丸入り口に整備することで、富士見台エリアからの屋外でのアクティビティが連続的に北の丸へと繋がっていく。

(6) 牛ヶ淵ウォーターサイドウォーク

現在建物の裏側に覆い尽くされている牛ヶ淵を人々に開放する歩行者空間を整備する。九段会館の建て替え時に出入口や植栽の位置などについてデッキに対して開けた構成とすること/清水門まで内堀沿いを歩きながら到達できるようにすることで牛ヶ淵のポテンシャルである石垣・桜・内堀を歩いて感じながら歴史的な資源にもふらっとアクセスできる、観光地として、さらには日常利用者にとっても魅力的な場所とする。また、沿道建築物の建て替え時にデッキと内堀通りをつなぐポケットパークの整備を誘導し、内堀通りからよりアクセスしやすい歩行者空間を目指す。

(7) 千鳥ヶ淵交差点デッキ

それまで通過交通のみであった千鳥ヶ淵交差点付近で、北の丸公園の新たなカオとして親水デッキを整備する。代官町通り沿いの土手に向けて階段・スロープで連続させる。デッキ上には芝やベンチ、案内所を設けて内堀や高速道路を眺めながら休憩場所や散歩道として利用できるようにし、西側の北の丸公園の入り口として公園の内部まで利用者を誘引する。

凡例 ひとの流れ